

# つながり

85号  
2016.7.15



青森県高P連調査広報委員会

題字：会長 大溝雅昭

青森県高等学校PTA連合会事務局

〒030-0113 青森市第二問屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内  
TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587

E-mail : akp017si@galaxy.ocn.ne.jp  
http://www.aomori-koupren.com/

## 開 会 行 事

6月10日、空の底が突き抜けたような快晴の中、八戸市公会堂にて577名が集い青森県高等学校PTA連合会三八大大会が開催されました。初夏の訪れを感じさせる暖かい気候の中、千葉学園高等学

校・向陵高等学校バトン部による素晴らしい演技が私たちを迎えてくださいました。

三八地区協議会副会長である吉岡義久氏による開会の言葉に続き、青森県高P連会長である大溝雅昭氏の挨拶がありました。その中で、今年の参議院選から18歳選挙権が適用されたことについて触



れられました。これは投票率の低下を国が危惧し国会で可決されたもので、若者が自ら欲したものではない、その為、選挙を通じて政治を自らの問題と若者自身が意識することが大切だとおっしゃられました。他にも、特別な支援を必要とする生徒への指導や、時代の変化に伴い、教育も多様に変わっていくことが大切だとおっしゃられていました。続いて三八地区協議会会長である若山忠義氏が、今回の三八大大会の意気込みを挨拶と共に語られました。受賞式では、青森県高等学校PTA連合会前会長である住吉治彦氏に感謝状が、八戸東高等学校前道路対策

## 平成28年度青森県高等学校PTA連合会 三八大大会 『未来へつなごう!』 ～家庭・学校・地域の輪～

委員長山田朋子氏に表彰状が授与されました。その後、五所川原第一高等学校前校長である故館田恭子氏に退任校長感謝状が、三戸高等学校前渉外主任である中村至氏に渉外主任表彰状が、青森中央高等学校PTAに広報紙コンクール最優秀賞がそれぞれ授与されました。

受賞者代表挨拶では住吉治彦氏が、どれだけ社会が高度化しようとも、人間は言葉で話し理解しなければならぬ、我々が学んだことをしっかりと子供たちに伝えていくことが大切だとおっしゃられました。

次に、佐々木郁夫青森県副知事



と中村充青森県教育委員会教育長、成田昌造青森県高等学校長協会会長からお祝いの言葉がありました。佐々木郁夫副知事は、今大会テーマにあるように家庭・学校・地域がそれぞれの役割を自覚し地域社会全体で子供たちの教育を支えることが重要とおっしゃられました。併せて中村充教育長はPTAが家庭・学校・地域の連携の要となり、社会全体で子供の教育に深く関わっていくことが大切とおっしゃられました。成田昌造会長は、我々大人が希望ある未来を作り、次代を担う子供達にしっかりと引き継ぐことが大切だとおっしゃられました。続いて小林真八戸市長の歓迎の言葉があり、その後、来賓紹介を経て開会式は無事終了いたしました。

(調査広報委員長

道閑 貴美)

## 記念講演

### 故郷を愛するということは言葉で愛するところから

八戸市公民館々長兼企画事業アドバイザーの榎谷伸夫氏を講師にお迎えし、『故郷を愛することは言葉で愛することから』と題して記念講演が行われました。

会場内は、お待たせ致しました。という雰囲気の中、いよいよ榎谷氏が南部弁の語り部として軽妙な南部昔ゴ、欲たがりばさまを語り始めると、会場内の空気は南部弁の面白さで笑いのウェーブが響き渡り、参加された方々は、『故郷を愛することは言葉で愛することから』の演題が昔話を通じて、言葉がどう関連していくのだろうか？という興味津々の面持ちで聞き入っていたのが印象的でした。講演の中で榎谷氏は、ユネスコの情報を活用し次のように述べていました。「世界には約6000語もの言語が存在し、その中から一日に一言語ずつ失われていく。言葉は文化であり又誇りでもある。言葉が失われる事は、人々のアイデンティティー（固有性・独自性）がなくなるといふ事である」と。

言葉には、その地域に住む人達の気持ちが通じ合える様な思い



が詰まっている。もちろんその国で話されている標準語で十分に情緒的な感情を相手に伝えるにはその地域で話される方言が、深い心のメッセージ性を高める力がある」と力説されました。更に、地域の方言には、お互いの気持ちがより通じ合える力、伝えたい事に色々な思いを詰め込める力がある。すなわちそれはその地域に住む人達の世界観やそこに住んでいるという誇りが、方言の持つ力を守ろうとする原動力になっている。とも言及され、言葉が失われるという事は、人間の世界観や誇りが消滅してしまう事であるから、言葉及び方言を、その地域全体で保存し守っていく事の重要性を説かれました。

榎谷氏は講演の中で、「子ども達に方言のシャワーを浴びせましょう！」と言っておられました。方言を使い愛する事が自らの故郷を愛する気持ちの育むのだという事を大人が理解し、学校、教師、PTAが地域の方々と密接な関わりや繋がりを持ちながら、普段から方言を使う事で、子ども達が情緒豊かな心の表現を身につけ仲間意識を更に深め、そこから郷土愛を温めていけるように、PTA活動を通じて親も子ども達に、故郷を愛することは言葉で愛することから、であると伝えていきたいと思われました。

(調査広報委員 新山 勉)

### 青森県高等学校PTA連合会 三八大会「歓迎セレモニー」

千葉学園高等学校

バトン部部长 石亀みらい

千葉学園高等学校バトン部と向陵高等学校バトン部は6月10日に青森県高等学校PTA連合会三八大会に参加致しました。千葉学園高等学校バトン部は今年で創部47年目、向陵高等学校バトン部は創部11年目を迎えました。両校とも、市内の様々なイベントに出演し、個人・団体の大会にも出場しています。

「継続は力なり」をモットーに、毎日休みなく練習に励んでいます。部活動を通して、バトンやポンポンの演技の技術を習得するだけでなく、礼儀やマナーなどの基本的なことも学んでいます。また、支えて下さる周囲の方々への感謝の気持ちも忘れることなく活



動しています。

今回、「歓迎セレモニー」に初参加ということで、普段以上に緊張感を持って挑みました。午前中のリハーサルから、何度もフリを確認し合いました。本番では、晴天にも恵まれ、両校の心をひとつに元氣いっぱい演技を披露しました。観客の皆さんが笑顔で一緒に歌ってくれたり、手拍子をして盛り上げてくれたので、とても嬉しく、大きな力となりました。観客の皆さんに笑顔を届ける気持ちで最後まで踊り切ることができました。演技後には、達成感と充実感があふれ、これからのイベントや大会に向けて、更にレベルを上げて、チーム一丸となつて取り組んでいこうと思えました。

今回、このような機会をいただきましたことをご喜び思いました。ありがとうございました。

向陵高等学校

バトン部部长 村中 麗乃

6月10日に、青森県高等学校PTA連合会三八大会が八戸市公会堂で行われ、千葉学園高等学校バトン部のみなさんと共に、歓迎セレモニーとして公会堂の玄関前で演技をしました。天気が良く、日差しも強かったため、演技に対しての不安はありましたが、大会役員の先生方や保護者の方々の暖かいご声援が私達の力となり、楽しく演技をすることができました。公会堂へ入る前に足をとめ、私たちの演技を見て下さる方々を見て、

本当に嬉しかったです。見て下さる方々へ歓迎の気持ちが伝わるように演技することができました。しかし、本番では、所々ミスがあり、悔しい場面がありました。私たちは、市内の様々なイベントに出演し、個人と団体の大会にも出場しています。本番で力を最大限に発揮するために日々練習を積み重ねていますが、今回の演技でもやはり満足のいく演技が出来ない場面もありました。しっかりと自分たちの演技を振り返り、今後に活かしていきたいと思います。

今回は、このような機会を頂いたことを本当に感謝しています。今後大会を控えている私たちにとって、とても良い経験となりました。これからも、支えて下さる方々、応援して下さい。最高の演技を届け、自分たちの目標を達成できるように日々練習を積み重ねていきます。本当にありがとうございました。

### 生徒発表 田子の杜の芸能披露

田子高等学校

郷土芸能部3年 築田 佳子

初めに、青森県高等学校PTA連合会三八大会へ、私達田子高校郷土芸能部を喚んでいただきありがとうございます。

発表に向けて私達が練習できたのは、高校総体後の僅か3日間でした。私達郷土芸能部員は全員が

## 研究協議

# PTA活動とふるさと教育

掛けもちのため高校総体前は、郷土芸能の練習はできない状況でした。しかし、少しでも良い演技を見せたいと思い、高総体後3日間の練習を大事に取り組みました。公会堂で披露するのは二度目なのでステージの広さや雰囲気は分かっていたのですが、短期間の練習だったので、すごく不安でした。

当日、リハーサルでステージに立つとやはり緊張しましたが、神楽も流し踊りも気合いは十分でした。そして迎えた本番、まず神楽の演舞が始まり、舞手がわざを決めると、観客席から拍手が起りました。それを声援に変え、舞手は盆を一度も落とさず演舞をする事ができました。流し踊りも今できる最高の踊りを披露できました。



柴田一則（八戸工業大学第二高等学校PTA会長）コーディネーターの、ようこそ八戸へおんてやんしたの心温まる南部地方の方言で挨拶が始まり緊張した会場の雰囲気は和み、助言者には高谷正氏（青森県立八戸中央高等学校校長）をお迎えし、県内三校のPTAの方々からそれぞれの学校のPTA活動の研究協議を拝聴致しました。

初めは、三橋美由紀氏（青森明の星高等学校前PTA副会長）が、『同窓生故佐藤初女さんと歩むPTA活動』と題して発表しました。青森技芸学院（青森明の星高等学校の前身）の卒業生である佐藤初女さんは48年の長きに渡り同窓会会長を務められ、現在のPTA活動は、悩みを持ち苦しむ人に寄り



添い、手料理でもてなし話に耳を傾け人々を救った初女さんの食を通じての救済の精神を礎に行われている事を紹介しました。初女さんを学校にお招きして、数回のおむすび講習会を開催し、92歳のご年齢になられてもPTAの為に最後の講習会を実施して下さり、常に人を愛し学校愛に満ち溢れたお姿の初女さんがPTA活動の促進力になっていく事が、素晴らしいPTA活動に発展しているのだと印象を受けました。

次に新谷貴城氏（弘前東高等学校PTA会長）が、『PTA、同窓生、後援会の思いを卒業生に』をテーマに、12年前から同窓会が始めた卒業生に送る寸劇の活動内容を紹介しました。毎年生徒の就職先を寸劇の舞台に設定し、同窓会・後援会のOB、OGが現役のPTA役員を誘い絆の輪が広がりが長く受け継がれている事がPTA活動の特色であり、学校に関わった方々が卒業する生徒に大切なものを気づかせる卒業生に送る寸劇の創作活動がPTA活動の活性化の一因になっている事を熱弁されました。学校に関わりのある方々や現PTAの皆さんが、これから社会に羽ばたく生徒の皆さんを総力をあげて、わが子を世に送り出すかのような微笑ましいPTA活動に感銘を受けました。

最後に、成田武司氏（五所川原商業高等学校PTA会長）が、演題に『子どもと共に成長するPTA活動を』のテーマで発表しました。教室では学べない事がある、という自らの座右の銘のもと、PTA活動が生徒と一緒に進んで行ける場を考えながらの活動になっていく事を紹介しました。子ども達との触れ合いの場を出来るだけ多く作り会話をし信頼関係を深め、保護者も勇気を持つて学校へ足を運んでもらえるような行事を企画し、地域の方々とも連携し子どもと保護者が今以上に成長できるように、を合言葉にPTA活動に力を注いでいる事がPTA活動の楽しさであるとお話しをされました。記念講演をされた根谷氏の演題に割って入るかの様に流暢な津軽弁を駆使し、持ち前の明るいお人柄と誰もが惹き込まれる語り口調で会場を笑いの渦に巻き込んでいました。柴田氏が発表を終えたお三方に、「PTA活動



とふるさと教育がどんな時に身近に感じるか？」と質問する場面があり、三橋氏は、佐藤初女さんとの交流から子ども達は食を通じて愛されている事を伝えるPTA活動に取り組んでいる時。新谷氏は、文化祭の時に地域の方々から野菜等の提供を頂きPTAの発展に役立つ時。成田氏は、PTA活動の一環としてエルムシヨッピーングモール周辺の地域清掃活動に生徒たちがアレッキを持ち汗を流して奉仕活動をしている姿を目の当たりにした時。とそれぞれのPTA活動を通じての感想を述べました。質疑応答の後、助言者である高谷正氏からは、PTA活動も教育の一環であり活動に感謝の言葉がでる活動でありたい。学校もPTA活動に積極的に参加し協力する事が大切である。学校は保護者が学校に足を運んでくれると嬉しい。このような環境の中で子どもと親も一緒に成長し、お互いの存在に感謝し共感できるような取り組みであって欲しい。と研究協議の内容を講評し締めくくりました。

（調査広報委員 新山 勉）

## 大会事務局

# 大会を終えて

八戸高校渉外部主任 諏訪内博彦

『未来へつなごう!』(家庭・学校・地域の輪)のテーマのもと、PTA会員や御来賓の皆様を合わせ約600名が八戸市公会堂に集い、盛大に高P連三八大大会が開催されました。ここに三八大大会実行委員会事務局として深く感謝申し上げます。これも日頃、各校のPTAの皆様が子どもたちのために一生懸命、前向きにPTA活動に取り組んでいらつしやる成果だと思っております。誠にありがとうございました。

さて大会が終わり、振り返るとさまざまなことが思い出されます。この大会の準備にあたり、昨年度は準備委員会を2回、今年度は実行委員会を3回開催してきました。三八地区各校のPTA会長や渉外部担当者が集まり、話し合いが持たれました。特に最後の第3回実行委員会は会場となる公会堂で開催されました。紙面で理解するより、現場でしか分からないことがたくさんありました。実際に控室の場所や広さを確認した



り、来賓の方々の導線を確認したりなど、会場を開いて良かったと思っています。会議では、やはり県内各地からいらつしやる方々が参加して良かったと思っております。『おもてなし』をどうするかという話し合いが、中心となりました。たとえば、公会堂立休駐車場が工事のため使用できないので、駐車場をどう確保するか。受付係の服装をどうするか。統一感の

ある服装で費用をかけないためにはどうするか。生徒発表の時間が少なく、1校しか発表できないので、バトン部による歓迎セレモニーを入れたらどうか。弘前大会のようにお土産が会場で買えたのが良かったので、物産販売をしたらどうか。着ぐるみでの歓迎を入れてはどうか。公会堂から情報交換会までの誘導や案内を工夫したらどうか。情報交換会でのレシピョンをどうするか。郷土料理や地酒の選定。各テーブルを華やかに飾るための花アレンジなど、多くの意見を取り入れながら準備を進めました。

今思えば、三八大大会実行委員の『おもてなし』にかける熱い想いが伝わってきた大会だったと個人的に感じています。この『おもてなし』にかける思いは他地区でも同じだと思えます。実は6年前に



東北地区高P連大会が八戸で開催されたのですが(私はその時には渉外部ではありませんでした)、その時に携わったPTA会長の方々から貴重な意見をいただいたおかげで、無事終えることができたと思っています。

このように、大会事務局校として企画・運営に携わってまいりましたが、三八地区各校のPTA役員や保護者、渉外部担当の先生方の御協力のおかげで無事終了することができました。紙面をお借りして感謝申し上げます。

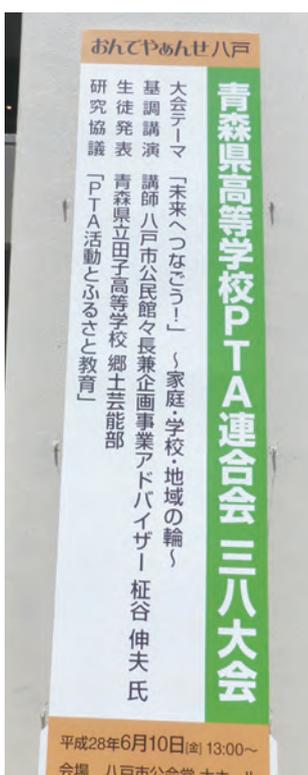
最後に、少しだけ事務局側から見た大会の様子と感想を申し上げます。まず、会場入口での千葉学園高校、向陵高校バトン部

による華々しい歓迎セレモニーに興味深く見て下さる方々がたくさんいらつしやいました。生徒の励みにもつながったと思います。また、着ぐるみですが、八戸市からは『いかずきんズ』、三戸町からは『11ぴきのねこ』シリーズから、ところどころ笑ったとらねこたい

しょう。に出演していただきました。当日は並んで写真を撮る方々もたくさんいらつしやり、微笑ましくうれしく思いました。

実は着ぐるみの中に入った保護者は汗だくになっていましたが、皆さんが喜んでる姿を見て、うれしく思っていました。新しい取り組みでしたが、やって良かったと思っています。大会研究協議では各校のPTA活動の発表を拝見しましたが、日頃から各校熱心に取り組んでいる様子が伝わってきました。他校の一生懸命な取り組みを聞いて、自分の学校でも新たな取り組みを企画したいと思いました。

この大会で何よりさまざまなことを共有できたことが、大きな収穫でした。そして日本の未来を背負ってゆく子どもたちのために少しでも役に立ってくださればと願っております。この大会こそ「未来へつなごう」となって、更なる発展をしてほしいと思えます。





# 共に成長する PTAを目標として

青森県高等学校PTA連合会  
会長 大溝 雅 昭

私からは3つお話しをします。

一つ目は、障害者差別解消法が4月から施行されました。障害者に対して不当な差別的取扱いをしないこと、社会的障壁を取り除くための必要かつ合理的な配慮を行うことが法律で定められました。県内には現在20校の特別支援学校があり、県高P連には5校が加盟しています。特別支援学校の重要性が増すとともに中身の充実が求められます。また、昨年の健全育成委員会研修会では、多くの発達障害の生徒が高等学校に通っている現状が報告され、発達障害を抱える保護者と教師の話聞くことができました。高等学校においても障害者に対してより一層の配慮と対応が求められることになりました。

二つ目は、今年から選挙権が18歳以上に引き下げられました。18歳〜19歳の約240万人が新たに有権者に加わります。高校3年生に選挙権の有る生徒と無い生徒が混在する初めの年になります。また、主権者教育が教育現場に入ってくることとなります。ぜひともご家庭でこの選挙権の話題を取り上げてください。県高P連といたしましても、主権者教育についての取り組みを考える必要があります。

す。

三つ目は時代の変化についてです。高校の3年間は将来への夢をふくらませ、それに向かって努力する3年間だと思えます。しかし、急速に進む少子高齢化、人口減少社会、スマホ文化という新しい時代に伴うネット上のいじめや依存症など、社会が変わっている中で、高校教育も変化を求められています。県教委では、平成30年度以降の県立高等学校教育改革に関する基本的な考え方を示す基本方針（案）を公表しました。県高P連としても時代の変化に対応する勉強をしなければならぬと考えます。グローバル社会に対応しながら、未来の青森県のために地域を愛する人材の育成について努力したいと考えております。

PTA活動は自分の子供のためはもちろんですが、学校全体のために行う活動であり、生徒と共にその学校の歴史を作っていく活動だと考えます。また、PTA活動は子供の成長と共に親も教師も成長しなければならぬ、そんな気付きを与えてくれる場でもあります。「共に成長するPTAを目指して」県高P連へのご理解、ご協力をお願いいたします。  
(県高P連八戸大会挨拶より抜粋)

## 和気あいあいの 委員会活動

弘前南高校PTA

本校PTAには年次（学年）を超えた4つの委員会があります。広報委員会は、会報紙「広報みなみ」の編集、進路対策委員会は、秋田、岩手、函館の大学見学会やキャリア講演会を実施しています。また、生徒指導委員会は、登下校時の一声運動や街頭巡視を行い、文化委員会では文化的な取り組みを企画し、会員間の親睦を図ります。

本校には、開校以来54年間天候に恵まれ続けている行事「全校マラソン大会」があり、その際、P



TAでは、生徒指導委員会等を中心に給水ボランティアを行い、多くの会員が一生懸命走る生徒の応援をしながら協力しています。

文化委員会は年2回の研修会を企画しています。1つ目は、美術館等の見学です。3年前には、岩手県立美術館で震災復興支援「若冲がきてくれました」を鑑賞しました。評判通り、伊藤若冲の絵画は見るものを圧倒するものでした。また、翌年はリニューアルした、秋田県立美術館へ行きました。大

壁画「秋田の行事」は3階までの吹き抜けギャラリーいっぱい飾られています。今年も、「蔵と庭園巡り」の企画です。2つ目の研修は、毎年秋に行われる「音楽の夕べ」です。2年前には、ビックバンド「長谷川健スイングハットジャズオーケストラ」の生の演奏を楽しみました。メンバーの中には本校PTA役員もおり、グレンミラーサウンドなど親しみやすい曲を演奏、ボーカ



弘前南高校PTA 音楽の夕べ  
演奏 長谷川 健 Swing Hat Jazz Orchestra

ルが加わってからは手拍子やかけ声も入り、大変盛り上がりました。昨年は、本校卒業生で、シンガーソングライター小山内創祐氏のミニライブでした。このときも会員ら50名が参加し演奏を楽しみました。いずれも演奏後には、出演者らと共に懇親会を持ち、おいしい料理とお酒を楽しみ、会員の絆が一層深まりました。この秋には「アルパ演奏会」が予定されています。

今後も会員相互の教養の向上と親睦を図るべくPTA活動に取り組んでいきたいと考えています。

(弘前南高校渉外主任 工藤 和夫)

明るく、楽しく、元気よく

五所川原高校競技かるた部は、平成22年度に同好会として発足し、平成25年度から正式な部活動として活動しています。競技かるたは「畳の上の格闘技」と呼ばれるほど激しい競技で、集中力・判断力はもちろんのこと、スピードや持久力が必要とされ、文化部というよりは運動部に分類した方がいいと思えるほどハードなものです。今年漫画『ちはやふる』の実写映画化で競技かるたに大変注目が集まっていますが、本校も『ちはやふる』の影響で入部した部員が少なくありません。

活動が始まった当初は、県内にある全国有数の強豪校に胸を借りながら、少しずつ力を伸ばしていきました。そして、東北大会の県選抜メンバーに選ばれた選手が出始め、さらには全国高総文祭の県選抜メンバーにも名を連ねられるようになり、ついに平成25年度、全国高校選手権に初出場を果たしました。この大会は競技かるたの聖地である近江神宮で開催されるため、本校選手も憧れの舞台で試合できる喜びを十分に表現して120%の力を発揮し、初出場ながらベスト8という素晴らしい成績をおさめることができました。また、翌年の同大会でも、個人戦

## 頑張っています 我が部活

でも、個人戦



A級で4位に入賞しています。

今年度は5名の1年生を加え、15名の部員で活動しています。競技かるたを本格的に始めたのは全員高校に入学してからですが、高いモチベーションで強くなるための努力を惜しまない部員ばかりで、全国高校選手権の団体優勝を目標に、日々の練習に真剣に打ち込んでいます。しかし、ただ単に試合で勝つために活動するのではなく、高校生としてしっかりとした行動をとることで、自分たちを支えてくださる方々への感謝を忘れないこと等、かるた以外のことを最も大切にして活動しています。今年もまた全国高校選手権に出場できることとなりました。保護者の皆様をはじめ、沢山の方々の御支援、御協力に心から感謝し、目標に向かって、明るく、楽しく、元気よく、全力でチャレンジしてまいります。

(五所川原高校 競技かるた部顧問 木村 俊昭)

## 加盟校紹介

### 八戸西高校 スポーツ科学科

全国的に社会体育や生涯スポーツの必要性がクロージングアップされ、スポーツに対するニーズが変化し始めた平成13年4月、県内で2番目のスポーツ科学科が本校に設置されました。体育・スポーツの推進、発展に寄与できる人材の育成を目指し、スポーツ全般の科学的・総合的な研究を目標に教育活動が行われています。特に本校では「3T」を経営目標の柱として設置から13年が経過した現在でも変わらず力を入れて取り組んでいます。3Tとは「Teacher」「Therapist」「Trainer」の三つの単語の頭文字で、それぞれ「体育教師や社会体育の指導者」「福祉並びに医療関係従事者」「トレーナーやスポーツ関連業従事者」を表しています。本校のスポーツ科学科では、3Tに向けての様々な特別授業や実習が行われております。まず、特色ある実習について紹介いたします。1年次は岩手県奥中山高原スキー場にて、1泊2日で、スキー実習を行います。最終日には自分の技能レベルに感じ、バジテストを受け、技能資格を取得します。2年次は修学旅行期間の2日間を利用し、沖縄県恩納村にてスキューバダイビング実習を行います。学科講習、海洋実習を受講し、オーシャンダイバーのライセンスを取得します。正規の合格基準で学科試験



と実技試験が実施されるため、合格点に到達できない場合は、ライセンスを取得できません。生徒達は懸命に勉強し学科試験に臨んでおります。ちなみに現在までの13年間で、不合格者はおらず、全員合格しております。3年次は、新郷村グリーンパークにて2泊3日でキャンプ実習が行われます。炊事活動を中心にキャンプファイヤーの企画・運営まで全て自分たちで様々な野外活動ができるようにプログラムを組んでおります。特別授業としては、テーピング講習会・普通(上級)救命講習会、老人ホーム訪問、車椅子バスケットボール交流会、はまなす医療養育センターとの交流会、ユニバーサルホッケー教室、公開講座など多岐にわたっております。特別授業のほとんどは地域、各種学校との連携や交流によるものです。様々な実習や授業に取り組むことで、リーダー性や自主性等が育まれ、個々の人間的な部分についての成長と職業研究・進路選択に繋がっていると実感しております。今後の課題としては、これまでのものを踏襲することにとどまらず、時代のニーズに応じた、新たな実習や特別授業を我々が企画・開発していくことだと思っております。八戸西高校スポーツ科学科が今後、ますます発展していけるように、また、スポーツをとおして社会貢献できる人材を育てられるように、挑戦し続けたいです。

(八戸西高校 教諭 斗沢慎一郎)

# 平成28年度 一般会計予算

収入総額 13,414,500円  
支出総額 13,414,500円  
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	8,285,000	事 業 費	6,005,600
学 校 割	1,365,000	助 成 費	175,000
(40,000円×3校)	120,000	組 織 活 動 費	2,400,000
(25,000円×39校)	975,000	研 修 ・ 行 事 費	1,500,000
(10,000円×27校)	270,000	負 担 金	1,180,600
会 員 割	6,920,000	表 彰 費	210,000
県立・全日制	6,000,000	会 報 費	540,000
私立・全日制	870,000	運 営 費	6,170,000
定通・特別支援	50,000	会 議 費	480,000
助 成 金	450,000	旅 費	3,000,000
繰 越 金	4,228,808	印 刷 費	300,000
雑 収 入	692	事 務 費	400,000
受 取 手 数 料	450,000	通 信 運 搬 費	260,000
内 自 転 車 総 合 保 険	250,000	渉 外 費	200,000
訳 高 校 生 総 合 保 障 制 度	200,000	慶 弔 費	60,000
合 計	13,414,500	人 件 費	1,350,000
		使 用 料	70,000
		雑 費	50,000
		租 税 公 課	120,000
		繰 出 金	800,000
		予 備 費	318,900
		合 計	13,414,500

# 平成28年度 特別会計予算

収入総額 8,302,500円  
支出総額 8,302,500円  
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

項 目	予算額	項 目	予算額
繰 越 金	7,502,181	助 成 金	0
繰 入 金	800,000	特 別 支 出 金	0
雑 収 入	319	予 備 費	8,302,500
合 計	8,302,500	合 計	8,302,500

# 平成28年度 委員会名簿

委員会名	役 名	氏 名	所 属 校 名
健全育成	委員長	下 館 幸 作	八 戸 西
	委員	米 田 一 成	青 森 商 業
	委員	濱 田 隆 行	弘 前 南
	委員	福 士 美 穂	五 所 川 原 第一
	委員	三 輪 剛	大 湊 川 内
	事務局長	安 部 昭 宏	八 戸 西
進路対策	委員長	前 田 晴 茂	鶴 田
	委員	高 谷 裕 実 子	青 森 明 の 星
	委員	花 田 昭 二	柏 木 農 業
	委員	石 川 緑	名 久 井 農 業
	委員	林 美 幸	三 沢 商 業
	事務局長	富 波 弘 子	鶴 田
調査広報	委員長	道 閑 貴 美	大 湊
	委員	津 田 雅 和	青 森 北
	委員	石 黒 直 子	弘 前 実 業
	委員	新 山 勉	八 戸 学 院 光 星
	委員	福 間 輔	五 所 川 原
	事務局長	玉 館 香 奈 子	大 湊
研 修	委員長	川 村 はる子	青 森 東
	委員	澤 田 富 士 子	弘 前 東
	委員	東 山 幸 江	八 戸 工 業
	委員	佐々木 百香子	木 造
	委員	中 河 博 之	田 名 部
	事務局長	畑 中 勝 雄	青 森 東

# 平成28年度 事業計画

## 活動方針及び事業計画

- 生涯学習を推進し、会員研修と広報活動を充実する。
  - 各委員会主管の研修会や各地区協議会研修会等へ積極的に参加する。
  - 県大会（八戸市）、東北大会（仙台市）、全国大会（千葉市）へ積極的に参加する。
  - 各委員会活動を活性化する。
    - 各委員会主管の研修会を充実する。
    - 東北地区高P連・全国高P連各委員会活動を担う。
  - 広報紙コンクールに積極的に応募すると共に、審査会を充実する。
  - 広報活動を拡充する。
    - 広報紙「つながり」（年2回発行）の内容を充実する。
    - リーフレットを新入生保護者に配布し、本連合会及びP T A活動の理解を深める。
    - 本連合会ホームページ（<http://www.aomori-koupren.com/>）により各種情報を提供する。
  - 主催者教育について各種情報を収集し、学校と連携して保護者の役割を学ぶ。
- 単位P T A及び地区協議会活動を助成する。
  - 各地区協議会の研究活動に対する助成を行うと共に、連絡や連携を密にする。
  - 単位P T A会長会議を開催（年2回）し、諸課題について協議すると共に情報交換を深める。
  - 高校生の健全育成に取り組み活動を支援する。
    - 家庭・学校・地域社会の連携を密にして、校外生徒指導を促進する。
    - ネットとケータイ・スマートフォン等使用マナーや性教育に関して研修を深め、積極的に指導をする。
    - 飲酒・喫煙・薬物乱用・危険ドラッグ吸引・いじめ等の防止へ向けて適切な指導をする。
    - 登校時一声運動・マナーアップ運動を実施し、交通安全指導を促進する。
  - 生徒の安全に関する保険等への団体加入を推進する。
    - 全国高P連賠償責任補償制度、自転車総合保険、高校生総合保障制度の加入率向上に努める。
  - P T A活動の望ましい在り方について調査研究を行う。生徒数減等による組織縮小化に対する様々な方策を模索する。
- 関係機関や関連団体との連携を推進する。
  - 県教育委員会・県高等学校長協会などと連携し、教育環境における諸課題や進路対策等に積極的に取り組む。
  - 県高校定時制通信制教育振興会・私立高校保護者会連合会・特別支援学校P T Aに対して助成を行う。
  - 県教育委員会等主催による研修会へ積極的に参加する。
  - 県P T A連合会と連携を取り、課題を共有すると共に情報交換を深める。
  - 教育環境改善促進のための各種情報収集を行う。

# 平成28年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	所 属 校 名	備 考
会 長	大 溝 雅 昭 弘	前	
副 会 長	若 宮 佳 一	八 戸	次年度会長予定
	越 田 宏 治	青 森 北	東青地区協議会長
	新 谷 貴 城	弘 前 東	中南地区協議会長
	吉 岡 義 久	八 戸 工 業	三八地区協議会長
	野 上 淳 一	五 所 川 原 工 業	西北地区協議会長
	三 上 義 也	七 戸	上十三地区協議会長
	大 見 竜 人	む つ 工 業	下北むつ地区協議会長
	成 田 昌 造	青 森	県高校長協会推薦
	小野崎 龍一	青 森 東	〃
	一 戸 利 則	八 戸 工 業	〃
	柴 田 一 則	八 工 大 第二	私立高校保護者会推薦
	白 戸 美 也 子	青 森 商 業	会長推薦
理 事	落 合 喜 一	青 森 商 業	県高校長協会推薦 各地区1名
	村 田 秀 俊	弘 前 東	
	阿 保 民 博	八 工 大 第二	
	山 口 章	五 所 川 原 農 林	
監 事	佐々木 孝之	七 戸	
	若 山 忠 義	八 戸	三八地区協議会
健 全 育 成 委 員 長	川 口 敏 彦	北 西	県高校長協会推薦
	下 館 幸 作	八 戸 西	三八地区協議会
	前 田 晴 茂	鶴 田	西北地区協議会
	道 閑 貴 美	大 湊	下北むつ地区協議会
	川 村 はる子	青 森 東	東青地区協議会
	住 吉 治 彦	八 工 大 第二	前会長

## 青森県高P連事務局

事 務 局 長	千 代 谷 均	安全互助会事務局長
事 務 局 次 長	原 田 豊 則	安全互助会事務局次長
事 務 主 任	今 美 智 留	



## 平成28年度 収支予算書

### ■収益の部

(単位:円)

科	目	予算額
経常収益		20,595,000
うち会費収入		20,235,000
うち雑収入		360,000
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		20,595,000

### ■費用の部

(単位:円)

科	目	予算額
経常費用		29,847,760
事業費		26,238,560
うち学校安全普及事業費		1,300,000
うち共済金等給付事業		14,851,000
その他の事業費		10,087,560
管理費		3,609,200
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		29,847,760

(単位:円)

正味財産期首残高	146,129,092
当期増減額(a)-(b)	-9,252,760
正味財産期末残高	136,876,332

## 平成28年度 事業計画

- ◆ 学校安全の普及充実事業…講習会・研修会の開催や共催、後援
- ◆ 共済金の給付…死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料
- ◆ その他目的を達成するために必要な事業  
安全互助会だより47・48号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

## 平成28年度 役員名簿

### ■理事・監事

職名	氏名	所属
理事長	住吉 治彦	青森県高等学校PTA連合会顧問
理事	成田 昌造	青森県高等学校長協会会長
理事	花田 慎	青森県高等学校教育研究会保健体育部会長
理事	落合 喜一	青森県立青森商業高等学校長
理事	大溝 雅昭	青森県高等学校PTA連合会会長
常務理事	千代谷 均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監事	須崎 正輝	元青森県立金木高等学校PTA会長
監事	三浦 輝行	青森明の星短期大学教授

### ■評議員

職名	氏名	所属
評議員	西澤 ナミ子	前八戸学院光星高等学校PTA会長
評議員	益川 毅	青森県PTA連合会顧問
評議員	太田 清貴	前青森商業高等学校PTA会長
評議員	太田 宏暁	東奥義塾高等学校教諭
評議員	下山 美智子	五所川原商業高等学校長
評議員	下山 昌一	元青森西高等学校渉外主任

## 平成27年度 事業報告

<b>1 学校安全普及充実事業費</b>	<b>1,700,000円</b>
(1) 東北高P連青森大会安全教育活動費	100,000円
(2) 地区協議会 安全教育活動費	600,000円
(3) 青森県高等学校体育連盟	200,000円
(4) 青森県高等学校文化連盟	200,000円
(5) 青森県高P連安全教育活動費	600,000円
<b>2 共済金等給付事業費</b>	<b>14,176,700円</b>
(1) 死亡共済金	0件 0円
(2) 後遺障害共済金	2件 144,000円
(3) 負傷共済金	3,496件 13,832,700円
(4) 香料	4件 200,000円

<b>3 その他事業費</b>	<b>513,400円</b>
(1) 安全互助会だより45号	202,700円
(2) 安全互助会だより46号	202,700円
(3) 安全互助会の手引き	54,000円
(4) 新入生保護者用リーフレット印刷代	54,000円

青森県高等学校安全互助会加入生徒数	
全日制	34,046名
定時制・特別支援学校	1,297名
通信制	421名
総数	35,764名

## 編集後記

平成28年青森県高P連三八大会は、大会テーマにもある『家庭・学校・地域』がいかに連結して教育に携わっていくべきか考えさせる、良い機会になりました。

た。イキイキとした生徒発表は素晴らしく、記念講演や各地区の研究発表は大変勉強になりました。

今年度、平成28年度広報委員で力を合わせ広報紙「つながり」にて様々な情報を発信して参ります。ご協力よろしくお願いします。

(調査広報委員長 道閑 貴美)

